

日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本ペインクリニック学会
代表理事 飯田 宏樹

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a 特に学術的に重要と考えられるもの

「ペインクリニック治療指針」、「慢性疼痛治療ガイドライン」、「血栓療法中の区域麻酔・神経ブロックガイドライン」などの各種治療指針やガイドラインを作成に関わり、本学会会員を中心として本邦の医師の医学知識や医療技術の向上に貢献している。また、学会ホームページ上で教育用の動画コンテンツの配信や痛みの基礎知識に関する記事の掲載などを行い、痛みの治療に携わる医師の知識向上を目指した活動を行っている。さらには、今夏に刊行される「慢性疼痛診療ガイドライン」においてもその重要な役割を担うことが出来ている。

b 当該領域における国際的な役割

国際交流の推進を目的に国際交流員会を設けて活動を行っている。主な取り組みとしては、日本ペインクリニック学会と中国、韓国の学会間での学術交流を促進する「三か国国際交流事業」が挙げられる。

c 活動からもたらされる社会的な意義

当学会は急性痛の緩和のみでなく、身体的・精神的・社会的要因が複雑に関与しながら生活の質（quality of life：QOL）を低下させる慢性疼痛、その両者が複雑に入り組んだがん患者の苦痛などを対象とし、痛みの治療や緩和を通じて QOL を向上させることを目的としている。さらに、患者が適正かつ適切な疼痛治療を受けることができる体制の確立にも努めており、このことは非常に高い社会的意義があると考えている。また、「慢性疼痛治療ガイドライン」や「慢性疼痛診療ガイドライン」などのガイドラインを通じて慢性疼痛診療に携わっている医療関係者に指針を示すは、慢性疼痛に苦しんでいる患者に対する福音をもたらすと考えている。

d 学会運営上留意している点

医療事故の防止や感染防止などの情報提供を会員に行い、医療安全推進や感染対策の周知徹底を図っている。また、一人でも多くの医師が痛み治療に関心を持っていただくように学会ホームページを作成し、ペインクリニック科医や一般の医師への教育・指導のみならず市民への啓蒙活動を行うことに努めている。

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

- 1) 日本ペインクリニック学会は国内の他の痛み関連7学会とともに「日本痛み関連学会連合」を発足させた。この連合は本邦での痛みまたは痛みを伴う疾患や病態の分析・解明およびその治療に関する研究を行う学会が連合し、広く痛みに関する医療者・研究者の交流を図るとともに疼痛研究および疼痛医療の研究を行うが下記を代表する連合として国や地域社会に貢献すること、および国際的な研究機関及び組織などとの連携協力を行うことを目的としている。とくに、「日本痛み関連学会連合」の用語委員会では、痛みに関わる用語の国内統一を目指している。例として、現在は本邦で正式な和名の無い「nociceptive pain」という概念の痛みを和訳するなど、本邦での疼痛診療で問題となっている事項に対して学会間で討論して統一見解を示していく予定である。

(日本痛み関連学会連合加盟学会)

日本ペインクリニック学会、日本疼痛学会、日本慢性疼痛学会、日本腰痛学会、日本運動器疼痛学会、日本口腔顔面学会、日本ペインリハビリテーション学会、日本頭痛学会

- 2) 以下の18学術団体の一員として緩和ケア関連団体会議に参画して緩和ケアの普及啓発を目指しており、各団体が連携して緩和ケア普及啓発活動の今後のあり方などについても協議を行っている。

(緩和ケア関連団体)

日本緩和医療学会、日本緩和医療薬学会、日本がん看護学会、日本がんサポーターズケア学会、日本癌治療学会、日本サイコオンコロジー学会、日本在宅医学会、日本在宅医療学会、日本死の臨床研究会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本ペインクリニック学会、日本放射線腫瘍学会、日本ホスピス緩和ケア協会、日本ホスピス・在宅ケア研究会、日本麻酔科学会、日本臨床腫瘍学会、日本臨床腫瘍薬学会、日本老年医学会

[貴学会から日本医学会に期待すること、日本医学会への要望について記載してください]

医学用語に関しては日本医学会としての用語の統一が議論されて「医学用語辞典」が出来ているが、ここ10年くらいは改訂がされていない。医学用語は新規医療が開発されるとともに次々と新しい語句も生まれてくるので、適切な期間ごとでの改訂が望まれる。